

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鐺木町 198-3
電話 (043) 485-1801

「まちづくり」に思うこと ----- 藤尾 治
ピンコロの水先案内人・90歳男 板井 省司

「異邦人」----- 佐藤 昌子
「ナイスショット」とは----- 池田 嘉雄

わが家の庭造り

若岡 照秋

寒い日が続く。1月はバラの剪定で1年の中で最も多忙な月となる。

昭和56年、大阪から造成間もない王子台に引越してきた。小さな庭があり、業者に造ってもらった。私は庭の隅に花壇造り。毎週、日曜日には長靴姿でバケツとスコップを持って周辺の空地へ石拾い。

格好が悪いので息子を連れて行った。拾ってきた石を長方形や楕円形に積む。城の石垣をイメージし、見栄えよく仕上げるために3年位かかった。後日談であるが、植木屋さんが庭を見て、「この造りは：」と言ってその先は暫し無言。多分「業者が造ったのではお粗末、素人にしてはよくできている」と言いたかつたのでは、と推測し自賛している。

木を植えていない場所には芝生を植えたが、その後雑草

に悩まされる。思い切って芝生を取っ払い「伊勢砂利と踏石」を敷いた。日暮れ頃になると、白い石が映え庭がいつ

そう引立つ。ところが、年月が経つにつれて砂利が汚れ当初の感動がなくなった。三度目の挑戦、「竜の鬚」を植えた。残念！ またも雑草が邪魔になる。雑草対策を指し、ホームセンターを見学。

「薄いレンガ」を敷くことにした。レンガを半分に割り扇形に並べる。900枚のレンガと、1年余りの時間がかかった。落葉も箒で掃くだけ、雑草も生えず庭掃除が大変楽になった。

るので場所は取らない。今は13箇所となった。玄関前に、パリの凱旋門をイメージして支柱を組んだ。後日、それを見た塗装会社社長さんに「橋梁会社にお勤めですか」と尋ねられた。

冬のバラ剪定は手間がかか

る。一度全部解体し残す幹、枝を選びアーチに誘引する。園芸の本には、水平方向に誘引すると書いてあるが、「草ぶえの丘バラ園」では、真っ直ぐに誘引すると教わった。樹形の見栄えを綺麗にするためだそうだ。

春になると、庭一面が色とりどりのバラの花でいっぱいになる。心が和む。

一方、「巨峰」も庭の主役である。ベランダの下に棚を組み栽培している。50房程の実が生り、店にブドウを買いに行くことはなくなった。

孫が「美味しい」と言っ

て食べる姿を見ると、庭の手入れに一層熱が入る。

(編集委員)

「まちづくり」に 思うこと

市民カレッジに入学する少し前から関係した「まちづくり」も、早11年になり中心市街地の活性化の為に始めた事業も最近ではマンネリ化しています。

佐倉市の戦後の歴史を顧みると新町通りの商店街は衰退の一途をたどっていて、今や佐倉市のメインストリートとは言えない商店街となつてしまいました。道路は綺麗に整備され、配電線は地中化され街路灯も歯抜けではありませんが、建て替えられました。然し車の通りは多いが歩いていける人の数は本場に少ない。此れでは住み良い町、歴史のある町、文化のある町とは到底言えないようです。

空き店舗を活用してまちの活性化を図ろうと、かつて、TMO事業が行われましたが、事業の実施期間が過ぎたら、其れでおしまい。その時に立

ち上げた事業で継続されているものは、2件だけ。その2件共今や風前の燈火。どう見ても発展性はなさそう。行政では、毎年のようにまちづくり、町の景観を考える会、住み良いまちづくり等の検討会を開催されますが、何一つ実現したものがないのが実情です。この様な検討会は、コンサルタントのレポート作成、大学の研究テーマで終わっています。それでも佐倉を訪ねる策に來られた方々から見られた佐倉は、まだまだ歴史を感じ文化を感じるまちだと言われます。然し此のままでは、10年20年後の新町通りは、本当のゴーストタウンになりかねません。今のうち住民皆の力と英知を結集して街づくりに努力しようではありませんか。

(千成 藤尾 治)



「異邦人」

毎週水曜日の午後、私は芸大出のピアノの先生と一緒に緩和ケア病棟でボランティアをしています。ピアノの音が流れると病室から車イスやチャープを引っぱりながら患者さんやご家族が出てみえます。まずその季節や行事にそつた唱歌や歌謡曲を歌い、その後患者さんのリクエスト曲をピアノ演奏で聴いたり一緒に歌ったりします。そんな歌のなかで忘れられない曲があります。

彼女はまだ30代半ばの方でした。談話室のピアノを見て、一度もピアノを弾いた事がないのに突然ピアノで久保田早紀の「異邦人」が弾きたいと言われました。ピアノの先生が楽譜を用意して一小節ずつ指使いを教えました。水曜日ごとに先生に次の一小節を習い、彼女は毎日ピアノに向かい練習をしていたそうです。そんな事が2カ月程続き

ました。しかしそのうちに談話室に出てくる体力がなくなり、病室で聞こえてくる「異邦人」を楽しみにしてみえました。

ある日ピアノに向かった先生に看護師さんが何か耳打ちしました。先生が「異邦人」を弾き次に讚美歌「アメイジンググレイス」を弾いていると、その途中で病室から泣き声が聞こえてきました。彼女がピアノを聴きながら亡くなられたのです。3日前から意識がなくズーと危篤状態だったとの事。彼女にとって「異邦人」がどんな思い出に繋がっていたのかは判りませんが、彼女はこんなにも「異邦人」のピアノを待ってみえたのです。

緩和ケアにいと人は自分の最期の時が分かっているのだと思わされます。「異邦人」の曲を聴くと今も涙ぐんできます。

(南ユーカーが丘 佐藤 昌子)

ピンコロの

水先案内人・90歳男

志津コミセンの囲碁仲間の一人にバイクでくる90歳の高齢者K氏がいる。

日本の男性の平均寿命はまだ80歳に届かない。90歳でバイクに乗るのはバランス感覚が問われるし、難しいことだと思う。

K氏とは10年来、ときどき対局している。ところがそれ以来棋力に差がつかないのである。常識的には、彼よりはるかに若い私の方が気力、体力の点から考えても上になつて当たり前と思うのだがそうではないのだ。

毎日我が家の前を通るのが93歳の高齢者A氏である。1年365日、毎日約1キロ先のスーパ―にショッピングに出かけている。私はA氏に道で会うと声をかけ、挨拶をする。ある時、A氏は競馬が好きで土曜日には一人で中山競馬場に行くことをA夫人か

ら聞かされた。私はなんと素晴らしい趣味ではないか、これこそA氏の長寿の秘訣かもしれないと思つた。

さて、誰もが望むのがピンコロであるが、現実はずしもなくそう甘くない。日本でも有数の長寿のまちとして知られる長野県佐久市の野沢成田山門には「びんころ地蔵」が建立されており健康長寿や子どもたちの健やかな成長を願う県内外からの参拝者で賑わつていと聞く。

人は高齢になればなるほど、経験したことのない未知の世界に入っていく。女性に比べて男性ではその傾向はますます強くなる。

バイクに乗って囲碁を打ちに来る、競馬が趣味で競馬場通いをする90歳の高齢者に接することは、ピンコロの大切な水先案内人（パイロット）を得たようなもので、生き方を大いに参考にさせていただきたいものである。

（ユーカリが丘 板井省司）

「ナイスショット」とは

ゴルフでプレーしていると、本当の意味から懸け離れた外国語が飛び交っていることに気付く。

例えば「ナイスショット」だ。女子プロの岡本綾子が米国のメジャーに挑戦していた時、この言葉を連発していた彼女と一緒にラウンドしていたプレーヤーが『ナイスショット』は和製英語よ。英語は正確に使うべきだわ。私たちはプロよ！。岡本はその言葉に赤面したという。アメリカでは見事な打球を「グッド・ショット」「グッド・ヒット」「グレイト・ドライブ」というふうである。

「オーナー」も気になる単語だ。もともと「オーナー」(owner)とは、持ち主や所有者を表す言葉である。ティーズで最高スコアを出したプレーヤーを称え、最初にティ

ーショットを打たせる。これが「オーナー」(owner)つまり技倆の優れた人に与えられる「名誉」という意味で、これほど内容が違うわけである。

「バンカー」という単語も外国ではあまり聞かれない。これは元来「ほら穴」として使われてきた。全英オープンが開かれるスコットランドのゴルフコース（海に近いので「リンクス」と呼ばれている）のそれは、地表深く掘られており、まさに「ほら穴」という表現にふさわしい。中島常幸が、この「ほら穴」にハマって大叩きし、トップ10から脱落していったのもリンクスの難コースであった。あのタイガー・ウッズですら、「ほら穴」前面に立ちほだかる高い障壁に挑戦せず、サイドにボールを打ち出すほどである。ちなみに米国では「バンカー」を「サンド・トラップ」＝砂の罠わなと言う。

（西志津 池田 嘉雄）

4月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鏑木町198-3

URL http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html

さくら道

先日、一足早い花見をと河津桜の原木がある伊豆の河津町まで車を走らせた。

河津駅近辺の河口から河津川に沿って3^{km}程河津桜の並木が続く。並木の下の子葉の花と相まって絶景である。

河津桜は、この河津町で初めて発見されたサクラの新品种で、大島桜と寒緋桜の自然交雑種と推定され、2月から3月にかけて開花する早咲きの桜である。花は淡紅色で、染

井吉野より桃色が濃く、花期は長いので、長期間楽しめる。

当日の開花状況は7分咲き位。しかし満開時に比べ、若い花びらは張りがあり生き生きしていた。更に赤い蕾が混じり薄紫色の見事な色合いを見せ一段と美しく思えた。

近年では各地で増殖が進み、佐倉でも、西志津多目的広場や佐倉城址公園等で早咲きの桜として親しまれている。

(鶴澤 和良)

あともがき

文化庁が発表した2012年度の「国語に関する世論調査」の一部が以前、新聞に掲載していました。擬態語、擬音語などオノマトペの新しい表現として

よく冷えたの意味で、皆さんに冷えたビール、大まかなの意味で、ぎっくりとした説明、温かくなりホッとするの意味で、気持ちがあほっこりする、快適に動くの意味で、パソコンがさくさく動く、の四つが例として挙げられてい

ました。

いつの間にかこんな表現がどこから出てきたのかわかりませんが、「使ったことがある、聞いたことがある」で合計すると7割から8割、少ないのでも4割程度になるのには驚きです。

新しい表現の是非は別にしても、うっかりしていると世間の動きに遅れてしまいそうな今日この頃です。

(金井 義彰)